

成田市への医学部進出と病院開設による県内への経済効果は約1,679億円に上るほか、地域の安心安全感も高まる。空港機能強化等を含め同市に集中する経済効果を周辺市町にも波及させ、地域全体を活性化したい

本年4月に国際医療福祉大学医学部が国家戦略特区を活用して成田市に開学し6か月が経った。140名の第一期生(うち外国人20名)は英語での授業を含むカリキュラムを順調に消化しており、2020年には臨床研修の場でもある医学部附属病院がオープンする予定である。

千葉銀行が10月に発表した「成田市への医学部開設に伴う千葉県への経済効果」によると、大学医学部と病院開設により県内で新たに創出される需要増加額(生産誘発効果)は、約1,679億円と推計される。うち校舎や病院、住居などの建設(初期投資)に伴う需要増加が約1,477億円

経済効果算出結果の総括

単位:億円、人

	医学部・病院等開設による効果(特区対象)(A)			先行2学部効果(B)	A+B
	うち医学部	病院	その他 ^(注)		
生産誘発額	1,679	246	1,271	163	1,821
初回(建設等)	1,477	215	1,100	163	1,599
年間	202	31	171	0	222
雇用誘発者数	15,326	2,228	11,542	1,556	16,615
初回(建設等)	14,177	2,017	10,604	1,556	15,330
年間	1,149	211	938	0	1,285

(注) その他は、住宅建設、道路整備など

(1回限り)、医学部や病院等(法人・個人計)が支出する費用から発生する需要増加が、約202億円(毎年)である。この規模は、各々千葉県製造品出荷額の1.1%、0.15%に相当する。同大学が先行して開設した2学部(成田看護学部、成田保健医療学部。2学部とも特区に基づかない)の需要増加効果は別途、約142億円であり、同2学部分を加算した需要創出額は約1,821億円に上る。

雇用誘発者数(県内)は、医学部・病院等開設に伴うもの(特区効果分)が、15,326人(初期投資効果、14,177人、毎年費用支出効果約1,149人)。先行2学部を含む全体の誘発者数が16,615(同各、15,330人、1,285人)。これに医学部・病院が直接雇用する雇用者数(約2,100人)を加えると、恒常的に合計で約3,400人(=約1,300人+2,100人)の雇用需要が生まれることとなる(うち特区効果分約3,250人<=約1,150人+2,100人>)。3,400人は、2016年の千葉県全体の常用雇用者増加数6,482人の5割強に当る。

新病院が生む安心安全効果としては、急性期患者受入れ能力の大幅な拡大や、医学部など卒業生の一部が県内に残ることによる千葉県(人口あたり医師数、看護師数などが全国最下位レベル)の人的医療資源の増加がある。周辺住民に対するアンケート調査では、「医療機関の選択肢が広がること」や「救急や夜間・休日診療体制の強化」など、中核的な医療機関から距離が離れている市町ほど期待感が強いことが確認された。成田市は、医学部・病院のほか、空港の機能強化、卸売市場の移転再整備など大型プロジェクトが目白押しで、千葉銀行が10月に公表した2045年までの人口推計では、推計最終年まで人口増加が続く県内唯一の自治体でもある。同市の人口増加や経済効果が交通網整備等で周辺自治体にも波及し、地域全体が活性化することを期待して止まない。(大塚)

■国際医療福祉大学成田キャンパス

	医学部	成田看護学部	成田保健医療学部
開設	2017年4月	2016年4月	2016年4月
定員	140(うち外国人20)	100	240
位置	京成 公津の杜駅前(徒歩約1分)		
特徴	ハイレベルな教授陣	国内外の多様な健康課題に対応できる「実践力」と「問題解決力」を習得可能	
	ハイレベルな学生の確保		
	臨床に強い医師を養成するカリキュラムと実習	グローバルヘルスを重視した実践的な教育カリキュラム	
	大多数の授業で英語による教育		

■国際医療福祉大学成田病院

位置	成田市畑ヶ田 (成田市と富里市の市境)
開業	2020年4月(予定)
病床数	642床(一般病床600、精神40、感染症2)
延床面積	105,657.76㎡

(出所) 国際医療福祉大学ホームページ等からちばぎん総合研究所取り纏め